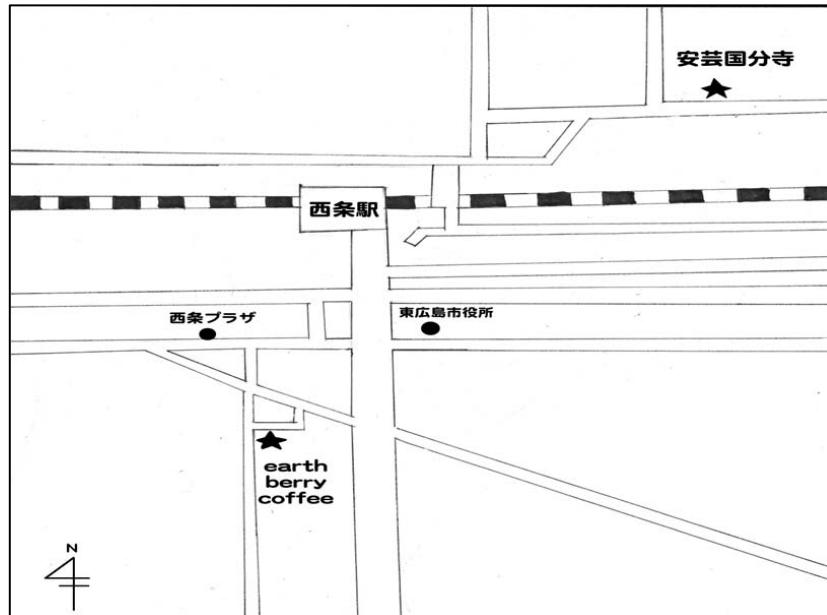


西条ぶらり歩き



安芸国分寺について

はじめに

今回、総合科学部報「飛翔」特集を組むにあたり、編集委員は読者のみなさんが普段あまり訪れることがないような場所をまわった。

最初の取材場所となったのがこれから紹介する安芸国分寺である。なお、今回の取材は安芸国分寺のご住職である、有瀬光崇（あるせこうしゅう）さんのご協力を得て実現した。取材のために貴重な時間をさいてくださった有瀬さんに感謝したい。

國分寺とは

読者のみなさんの中には、高校生のとき日本史を学習していた方や、歴史が好きで寺院巡りをしているという方もいらっしゃるのではないだろうか。そのような方は國分寺と聞いておわかりであろう。國分寺は、奈良時代に聖武天皇の命によって、全国60余か所に造られた。安芸國分寺もその一つだ。國分寺が

建立された当時、国内では人々が天然痘の流行に苦しんでいた。それに加えて聖武政権への反乱ⁱⁱもあった。仏教を厚く信仰した天皇は、仏教の力によって政情不安を解決しようとし



た。ⁱⁱⁱ741年（天平13年）に天皇は「國分寺建立の詔」を出し、全国に國分寺、國分尼寺を建立するよう命令し、東大寺をその総本山とした。余談であるが、743^{iv}年（天平15年）にはかの有名な「大仏造立の詔」^vを出している。

安芸國分寺について

安芸國分寺は750年（天平勝宝2年）には様々な仏教の儀式が行われている。國分寺の

建立は全国的に遅れていた^{vi}ようだが、安芸國分寺は比較的早い時期に完成したようである。

七重塔もあったようだが、ご住職のお話によれば、落雷が原因で焼失してしまったらしい。また、創建時の伽藍も源平合戦の際に焼失してしまった^{vii}。



戦国時代になると、大内氏や毛利氏によって再建された。現存する仁王門の祈禱札には、天文 12 (1543) 年^{viii}の記述がみられる。しかし、宝暦 9 (1759) 年には、門以外の全てが焼失してしまった。その後また再建されている。

安芸國分寺の歴史的遺物、文化財

國分寺では調査が行われており、様々な歴史的遺物が発見されている。奈良時代の荷札、木簡や土器などである。また、奈良時代、都から各国に「国師」と呼ばれる僧官が派遣されていた。彼らの拠点である、「国師院」が國分寺の中にあつたことを全国で初めて発見している。

以下は安芸國分寺の文化財である。中には普段公開されていないものもある。

國分寺仁王門：國分寺でまず初めに我々を出迎えてくれる。現存する中世の仁王門としては県内唯一のものである。

國分寺護摩堂：18 世紀から 19 世紀にかけて建てられた地域最大の護摩堂。

薬師如来坐像：宝暦 9 年頭部を残して焼失したが、翌年胴体が制作された。

木造薬師如来坐像：火災のため表面が炭化したが、和紙を貼ることで補強された。

國分寺を訪れた際はぜひ見ていただきたい。

編集後記

ここでは紹介することがかなわなかったが、ご住職の有瀬さんには仏教そのものについてのお話、宗教者としての有瀬さんの生き方など、貴重なお話をうかがった。寺院は単なる宗教施設ではなく、今回紹介したように文化財の保護（または文化財そのもの）という大きな役割をになっている。また、近年は信仰に関係なく、コミュニティ形成の場としても注目されつつある。読者の皆さんも國分寺をはじめ地域の寺院を巡ってみてはいかがだろうか。新たな発見があるかもしれない。

参考文献

石井進 五味文彦 笹山晴生 高埜利彦 ほか 8 名. (2013). 詳説日本史 B. 山川出版社.

東広島市教育委員会. (日付不明). 安芸國分寺パンフレット.

東広島市教育委員会. (日付不明). 安芸國分寺歴史公園パンフレット.

有瀬光崇氏. (2015 年 7 月 11 日). 安芸國分寺について. (上田朋子 吉川瑠美 瀧口健太, インタビュー質問者)

注)

ⁱ 天然痘は遣隋使、遣唐使による中国との交易によってもたらされたという説が有力である。

ⁱⁱ 例えば、740 年、聖武天皇の側近の吉備真備（きびのみきび）、玄昉（げんぼう）らによる政治の独占に不満をいだいた、藤原広嗣（ふじわらのひろつぐ）が大規模な反乱を起こした（藤原広嗣の乱）。

ⁱⁱⁱ 仏教の力で国家を守ろうという思想を「鎮護国家の思想」という。

- iv 堀田永年私財法が出された年である。
- v 大仏造立について興味を持った読者がいれば、手塚治虫『火の鳥』（角川文庫）を参照されたい。
- vi 財政難と、地方豪族の協力がなかなか得られなかったことが原因とみられている。
- vii その後、創建当時そのままとはいかないまでも、主要伽藍は再建されたようである。また、火事、戦火等で焼失するたびに再建を重ねている（有瀬光崇氏補注）。
- viii 日本に鉄砲がはじめて伝来した年である。

《アクセス》

安芸国分寺

〒739-0002

広島県東広島市西条町吉行 2064

TEL 082-430-7763

EARTH BEERY COFFEE

次に、西条中央にある『アースベリーコーヒー』取材した。今年オープン三年目を迎える、コーヒー豆の自家焙煎店だ。その店長の片岡ひかるさんに、お話を伺った。

<<お店をはじめるにあたって>>



コーヒーの自家焙煎店をやっています。コーヒーの豆を店で焼いて、販売する店です。

地域の人に、おいしいコーヒーと出会ってもらい、コーヒーを通じてそれぞれの人にち

よっとハッピーな時間を作ってもらう、というコンセプトでやっています。

今、サードウェーブコーヒーという、第三の波というコーヒーのムーブメントが興っています。その流れで、生産地と直接パートナーシップが築ける時代になってきています。僕もアフリカとか中南米に行って、少しずつ生産者の方とダイレクトトレードをし始めているのですが、そういうお店は東広島にはありません。広島にも少ないです。

もともと喫茶店の仕事をこの土地で家業としてやってきた中で、ここの客層とか、西条がどういう土地なのかということが大体解るのですが、改めて冷静に、市役所で人口統計とか、土地のこととかを全部調べました。店がターゲットとする 30 歳～50 歳の女性がたくさん住んでいる裏付けが取れ、「これはいけるな、やろう」と思い、西条に店を構えることに決めました。



<<カフェと豆屋>>

お店には、カフェスペースがあります。コーヒーと、ケーキが少しあるのですが、それだけです。なぜかと言うと、カフェは、売り上げをたくさん上げようとする、どうしても広いお店が必要になってきます。『席数』と『客の回転率』で売り上げが決まるからです。また、席数を増やそうと思うと、今度は駐車場が必要になってきます。30 席あるのに駐車場が五台分しかない、席は空いている

のにお客さんは来ることができません。しかも、席が 30 席あり、客単価が 1000 円なら、満席になって、五回転したって 150000 円で、それが限界です。どれだけ忙しくても、時間と席がある以上、それ以上は上がりません。しかし、コーヒーの豆売りの場合、お客さんが買って帰ってくれるので、時間はわずか 5 分で、回転も関係ない。一人二人で出来る。駐車場も狭くていい。でも、売り上げは頑張ればカフェ以上に伸ばすことができます。そういった魅力的な業態なので、僕は最初カフェとコーヒー豆売屋のどちらをやるかと考えた時に、豆屋の方を取りました。

じゃあなぜカフェもあるのかというと、これがないとお客さんは入りづらい。ここに来てもらって豆を買ってもらうきっかけとして、カフェは必要です。コーヒーをあまり飲んだことがないけど、いきなり豆を買うって人は少ないですよ。それだと商売にはなりません。普段コーヒーを飲まない人やコーヒーを知らない人にたくさん来てもらうため、カフェや試飲を窓口にしています。コーヒーのことを全然知らなくても、飲んでもらえば味や、好きか嫌いかが解りますよね。『沢山の人がコーヒーとの素晴らしい出会いを作る』がコンセプトなので、そこに繋がるような営業を心がけていて、逆にそこに繋がらないものはすべて排除します。例えば、「サンドイッチがあればいい」という人もいますが、それはコーヒーとの出会いにつながるものではなく、空間と時間の販売になると思います。それは店のコンセプトとは違うので、行っていません。

<<最後に>>

今までたくさん失敗してきたし、無駄なお金や時間を散々使ってきたけど、それはトライアンドエラーだと思います。挑戦して失敗

して、たくさん学びました。そこからようやく引き算にできるというか、それまではずっと足し続けるしかなく、色々自分のやりたいことをしたり人のまねをしたり、自分のできないことを背伸びしてやってしまいます。そこで色々失敗しそぎ落とし、自分でできることや、自分の提供できることが一つしかないことを実感しました。まだ始めて 2 年半なので、全然成長というほどの直線を辿っていないのですが、今後 5 年先も見据えていますし、勿論短期のこと、来月来年、のこともちゃんと考えてやっています。今後どういう風に成長できたらいいなということも思い描いて、それに沿えるように営業しています。

《アクセス》

〒739-0014

広島県東広島市西条昭和町 6-2 ラフィナーネ昭和町 1F

TEL 082-421-6155